

倉本 沖島哲三郎 (右) 一九二九年十月
佐藤 一六〇〇人 (男) 一九二九年
長 一六〇〇人 (男) 一九二九年
尾 一九二九年

尾 一九二九年

尾 一九二九年

尾 一九二九年

尾 一九二九年

労働運動の途上と目標

尾 一九二九年 沖島哲三郎

世界労働の中程から近代人の思想上に著しき變化を生じて來た、我が思想界にも前代未聞と云つて好い程に著しき變遷を來した。近代人は之れを評して大正維新だと云ふ。

曰く新入運動、改造運動、解放運動、労働運動、女性解放、自由、平等、革進、刷新、之れ等の叫は各所に於て絶叫されて來た。金力と權力を以て横暴を極めて居た階級の人に對抗せんとする無産有識階級の運動、無産労働階級の社會的地位の向上運動、男性の放漫に對する婦人の解放運動、各種各様に唱道せらるゝ近時の思潮は之を要するに人間味を見出したのに起因するものだと云つて宜いだらうと思ふ。

時には時代思潮に涵透して革命的夢想を爲す人も無いではない、或は少数ではあるが社會主義にカネれない、或は又何がなしに面白半分で音頭を取つて居ると云ふ輩の者もある、彼れ等は別問題として文化思潮が漸く濃くなつて來た傾向は儘に見出される、私は大正維新の運動としては文化運動を旺ならしむると云ふにあらしめたいと思ふ、文化運動としよの労働運動に就いて茲に其の途上と目標を説述する。